

## 事例紹介

# 7

鉄道業（特例子会社） / 駅清掃

## 株式会社京急ウイズ

（神奈川県川崎市川崎区砂子1-3-3）

2004年1月現在、京急ウイズが雇用している障害者は、重度知的障害者6人、知的障害者1人、重度の身体障害者1人の計8人。



### 初志貫徹で、前向きに取り組む駅清掃業務

「駅をピカピカにしたいです」。重度の知的障害を持つ舘野寿子さんは、入社前の面接で志望動機を尋ねられたとき、元気よくこう答えたそうです。

舘野さんが勤務する会社は、神奈川県川崎市に本社を構える京浜急行電鉄グループの株式会社京急ウイズ。この会社は親会社である京浜急行電鉄株式会社が、障害を持つ方々の雇用を創出するために設立した特例子会社です。親会社はもちろんグループ全体の中から、障害を持つ方や高齢者が対応できる業務を集約化することで、より働きやすい環境を提供しています。社員は現在21人。そのうち6人が重度知的障害者。舘野さんもそのうちのひとりです。ほかに軽度の知的障害者が1人、重度の身体障害者が1人おり、全部で8人の障害者が元気よく働いています。

舘野さんが「駅をピカピカに」と言うように、障害者が担当する業務は駅の清掃です。駅を利用する多くのお客様が常に快適でいられるようにと、コンコースや通路、階段、トイレに至るまで隅から隅まで掃除します。舘野さんの勤務する京急川崎駅には6人の障害

者があり、2人の指導員とチームを組んで清掃業務に取り組んでいます。

「仕事はおもしろいです。それに働いてるみんなもおもしろいです」と元気に答える舘野さん。とはいえ、駅という場所は特殊な場所。電車の出入りのみならず、混雑時には人の流れも相当激しいため、常に危険が潜んでいます。

「掃除に集中しすぎるあまり、事故を起こすことのないよう、現場では指導員と障害者が頻繁にコミュニケーションをとるよう指導しています」と語るのは、日ごろ障害者スタッフの勤務ぶりを管理している松本洋一さん。



### 社内に込めた「一緒に」の心で、多くの機会を与えたい

一日の仕事は朝礼から始まります。指導員の点呼が終わると、近くの空き地でラジオ体操。

「ラジオ体操で一番声を出すのが舘野さんです。そのうえ、先頭をきって声を出すので、最初は指導員も驚いたほどです」と松本さん。一日の始まりの元気を舘野さんがリードしているようです。ラジオ体操の後は、本社前の清掃業務。駅構内同様、駅に向かう人々に、自分たちの清掃活動をアピールする絶好の機会でもあります。



## PROFILE

舘野 寿子（たての としこ）さん  
1972年生まれ 31歳。  
重度知的障害。

2003年の会社創設時からのスタッフ。駅の清掃業務を担当。

# 障害者の働く意欲を醸成しつつ、 障害者雇用の可能性を 地域社会にアピールしています。



駅を利用するお客様が気持ちよくすごせるように丁寧に清掃していきます。一番たいへんなのは、ホームや通路にはりついたガムの取り除き作業。根気のいる仕事です。

清掃スタッフの胸には、社名と本人の名前が大きく書かれた胸章が付けられています。

駅利用者や市民からの反響も大きく、「ウイズのロゴをユニフォームの背中に付けようか」という話もあるほどです。地域社会へ障害者雇用にアピールしていくことも私どもの仕事だと考えています」

グリーンのクローバーをモチーフにしたウイズのロゴを背に、駅清掃に励む館野さんたちの姿が見られる日は近いかもしれません。「ウイズ」を社名にしたのも、「一緒

に」という思いが強かったからでそう、1か月に一度のペースで行われる社員教育の場では、健常者も障害者も一緒に声出し訓練を行っています。「ウイズ」に込められた思いはこんなところにも現れています。



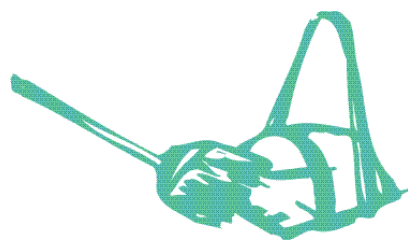
クリスマスに行われた懇親会で撮った写真をはりました。懇親会は、保護者と会社の人間が接点を持てるよい機会。今後も続けていくそうです。

「将来的には、現在障害者にやってもらっている駅清掃以外にも職域を広げていきたいと考えています。たと

えば、駅に設置されている宿泊施設などの寝具を乾燥、殺菌する業務。ほかにはパソコンを使っての名刺作成業務などがあります。ひとりですべてを行うのは、場合によっては無理かもしれませんが、補助者としてきつと活躍できるはずですよ」と松本さん。

これに対し、「やったことのない仕事もしてみたいです。何でも経験してみたいです」と館野さん。

館野さんらに続き、ウイズでは、新たに採用予定の実習生が清掃業務に取り組んでいます。先輩となる館野さんたちには、ますますリーダーシップを発揮することが求められています。



## Just the point

障害者たちの働きぶりを知っているからこそ仕事の幅を広げてあげたい。

株式会社京急ウイズ 管理担当  
松本 洋一（まつもとよういち）さん

私どもの京急ウイズは、鉄道業界では初めてとなる特例子会社になります。創立時に障害者を8人新規に採用し、彼らには主に清掃業務に携わってもらっています。私自身この会社で初めて、知的障害の人と接する機会を得ましたが、健常者顔負けの頑張りでよくやってくれています。特に館野さんは、社内のムードメーカー的な存在です。わりとおとなしいスタッフが多い中、館野さんがいると現場の雰囲気はバアッと明るくなりますね。障害者だからといって仕事の幅を狭めてしまうのではなく、どんどん機会が与えられていくべきだと、元気に働く彼女らを見ていて強く思います。